

# 令和元年度 自己評価報告書

令和2年3月  
岐阜県立下呂看護専門学校

## 1 本校の基本理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う、専門職業人を育成します。

## 2 令和元年度組織(所属)目標及び実績

### 1) 優秀な学生の確保、就業支援の強化

令和2年度入学手続き者数 23名(定員30名)

①オープンキャンパス参加者	174名(昨年比9%増)
②学校説明資料作成(入学前後のQ&A)	ガイダンス等で配布
③進学ガイダンス	9回(94人対応)
④高校訪問	5圏域32校
⑤ホームページの更新	受験情報の提供
⑥受験生アンケートの実施	令和2年度受験生53名実施
⑦入学生アンケートの実施	令和元年度入学生27名実施

### 2) 県内就業促進・定着支援の充実

県内就業率 95%(19名)

① インターンシップ参加	2年生26名(延べ数50名) 1年生27名(延べ数19名)
②卒業生と語る会	10月開催 卒業生7名 1、2年生全員参加
③卒業生交流会	2月開催 卒後1、2年目9名参加
④卒業選択理由調査	卒業生 20名実施
⑤就職活動講座	2年生 26名受講

### 3) 学校評価のしくみづくり

- ・学校運営計画に基づく学校評価(自己点検・自己評価)、組織目標および各委員会・係目標への取り組評価を実施(9月、3月)、課題を明確にした。授業評価(学生、教員)については、内容・方法を見直し完全実施により、課題の明確化に取り組み、結果を公開するよう準備を進めている。
- ・学校中期目標・中期計画を1月に立案し、学校評価のしくみを表記した。

### 4) カリキュラム改正に向けた教育内容の見直し

- ・カリキュラム検討委員会を中心に、卒業生調査を実施しカリキュラム課題の抽出、新カリキュラムを見据えた主要概念の検討、専門科目評価による課題検討後、シラバスを修正した。

- ・実習委員会を中心に、実習目標および評価基準の見直し、学生の主体的な学びを促進するための実習要領を作成した。

### 5)安全で快適な学習・生活環境の提供

- ・防災対策の強化として、4月に交通安全講話、避難訓練、飛騨地域に関わる防災講話を実施した。9月には、寄宿舎抜き打ち避難訓練と実施後調査による課題に対して、消防士による講話、寮生主体の学習会の実施、避難方法の見直しをした。また、防災専門家の指導により、備蓄品および管理方法を見直し管理強化を図った。校舎・寄宿舎の危険箇所については、予算の関係上一部分のみの改善である。
- ・他の環境改善として、蔵書数の増加、インターホン、給湯機の交換等を実施した。

### 6)職員の資質向上のための研修・支援体制の充実

- ・教員のキャリアラダーにより、県職員、教育実践能力および看護実践能力に係る研修受講を計画実施し、研修成果は毎月および集中学習会にて共有することで専門知識の向上が図れた。複数領域担当制による教育実践力強化については、主たる領域担当が中心となり多領域の補助には至らなかった。

### 7)業務の効率化によるワークライフバランスの推進

- ・業務改善提案（13件）の取り組み、業務連絡会（週1回）等により、時間外勤務削減（前年度比-2時間39分/一人、-5%/全体）、年休取得増加（前年度比12.5日/一人、+24%/全体）を達成できた。（12月末現在）

## 3 評価項目の達成および取組状況

### 1)学校経営

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。</li> <li>・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。</li> <li>・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。</li> <li>・管理職のリーダーシップのもと、係長が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。</li> </ul>	3.9

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分

- ・中期目標・中期計画（1月作成）および組織目標の周知は、職員会議および教務会議で行った。
- ・学校評価、組織目標、各委員会・係活動の評価は、9月、3月に実施した。中間評価を実施し課題を明らかにして後期の運営に取り組み、次年度目標を検討した。令和元年度9月、3月の学校評価結果はホームページに掲載した。

- ・下呂看護専門学校における「学校評価のしくみ」を見える化し、目標に基づくP D C Aサイクルで学校運営を行うことを周知した。運営会議、職員会議、教務会議、業務改善推進委員会で重要課題について検討し改善に取り組んだ。

【課題】

- ・組織的な学校評価の取組みを始めた年度であり、目標に基づく実施、評価が遅くなり、P D C Aサイクルが円滑に機能できていない。

【対策】

- ・運営会議、職員会議、教務会議で、取組み計画を周知し進捗状況を確認する。
- ・学校評価関係者委員会の助言・指導をもとに、学校の強みと課題を明確にして学校運営の取組みを計画的に進める。

2) 学科運営

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。</li> <li>・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。</li> <li>・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。</li> <li>・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。</li> <li>・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。</li> <li>・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。</li> <li>・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。</li> <li>・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。</li> <li>・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。</li> <li>・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。</li> <li>・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。</li> <li>・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。</li> </ul>	<p>3. 5</p>

- ・令和元年度教育目標に基づくディプロマポリシーを設定したが、卒業時の到達状況の分析には至っていない。

- ・平成30年度から専門科目評価を開始し、教育内容を検討しシラバスの部分的な見直しを行った。令和元年度は、科目評価の認識を深めることができ、領域科目間の繋がりを検討して授業内容・方法の修正を進めた。
- ・評価方法は、シラバス、オリエンテーション、授業内で説明をしている。
- ・時間割作成は、期日設定をして調整しているが、講師との調整の遅れ等により配布が遅れることがある。
- ・学生の単位取得に向けて、学年担当を中心に、学習習得状況の確認や休業前の個人面接、成績検討会等により支援している。
- ・実習環境は、宿泊施設（寄宿舍）等も含め協力が得られている。新規実習施設では、学習会を開催することで人的環境も整えた。今後は、実習施設に公開した授業評価（学生）結果をもとに調整を進めていく。
- ・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明文化したものは作成していないが、実習連絡会や学習会等で指導者や管理者と調整を重ねている。実習内容・方法について、指導者・学生との共通理解を促進するために令和元年度実習指導要領を作成した。また、適正な評価とするために実習評価基準の見直しをした。
- ・患者への倫理的配慮は、実習開始時のオリエンテーションで強化し、実習指導者と調整を図っている。また、学生が意識して取り組めるように各実習内容、評価項目に明記している。
- ・実習時のインシデント、アクシデントは、速やかな報告と分析に心がけ、実習調整ミーティングで再発防止策を検討した。
- ・学生による授業評価項目、評価システムを検討し変更した。また、学生に授業評価の意義、活用を説明することで100%の回収ができ、非常勤講師や実習施設への公開をすることができた。しかし、授業評価公開による授業改善の成果については検討ができていない。

#### 【課題】

- ・カリキュラム評価、カリキュラム改正の経験がない教員がほとんどである。
- ・卒業時の到達状況の分析、評価ができていない。
- ・遠方からの講師、遠方実習が多いため、科目の順序性が整わないことや実習指導時間の限界がある。

#### 【対策】

- ・カリキュラム検討委員会、学校評価（自己点検・自己評価）委員会を中心に、学習会や検討会を進める。
- ・卒業時の到達状況について分析を進め、評価の妥当性を検討する。
- ・学習効果を高めるために内部講義の内容・方法の調整を図るとともに、実習指導者との調整を綿密に行う。

### 3)入学・卒業対策

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの応募者を確保することに努めているか。</li> <li>・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。</li> <li>・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。</li> <li>・卒業生への支援を行っているか。</li> <li>・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。</li> </ul>	3.7

- ・学生確保事業として、地元広報誌や有線放送、下呂市広報誌でのPR活動、中学校長会でのオープンキャンパスの紹介、小・中学校の出前授業を開始した。
- ・平成29年度にアドミッションポリシーを設定し、学生募集要項等に掲載することで、本校の求める学生の確保に努めている。
- ・国家試験対策では年間計画のもと、模擬試験、担当制による個別指導等で心理的サポートも含めた支援をしている。
- ・質の高い卒業生を輩出するために、課外時間を活用した技術練習や「看護安全」では模擬患者（地元ボランティア住民）によるOSCEによる技術試験等の取組みにより看護実践能力を育成に努めている。
- ・平成29年度から「卒業生交流会」を実施し、卒業後の悩みややりがいを語り合う場になっている。平成30年度からは、高度な知識・技術を獲得した卒業生による講演会を開催し、キャリアを含めた看護実践を紹介している。  
看護師を平成30年度から「卒業と語る会」を開始し、県内で活躍する卒業生から看護の魅力や実際の勤務について聞くことで、在校生は未来像をイメージでき学習や就業意欲向上に役立っている。令和元年度県内就業率は100%である。

#### 【課題】

- ・国家試験対策について、教員の共通理解がされていないことがある。

#### 【対策】

- ・模擬試験結果の分析に基づく計画的な対策を強化する。

### 4)学生生活への支援

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。</li> <li>・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。</li> <li>・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。</li> <li>・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。</li> </ul>	3.2

- ・令和元年度「学生生活実態調査」「就職選択理由調査」を実施し、教職員で分析結果を共有して、学生の個別相談、学年指導に活用している。
- ・高等教育無償化制度、下呂市奨学金制度をはじめとする修学支援について、情報提供や手続きの相談を適宜行っている。
- ・実習時や寄宿舎について感染症の対応マニュアルを作成した。こころの相談室利用者は延べ3名（相談者1名）であるが、近隣のクリニックに受診している学生もある。
- ・サークル活動希望者は、「学生生活実態調査」では15%で、バレーボール等であった。

#### 【課題】

- ・サークル活動への支援ができていない。

#### 【対策】

- ・サークル活動への支援については、「学生生活実態調査」結果や学生の声、地域性等から必要性等を検討する。

### 5)教職員の育成

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。</li> <li>・学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。</li> <li>・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。</li> <li>・教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。</li> <li>・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。</li> </ul>	3. 1

- ・カリキュラム改正に向けた現状把握のために、「高校の現状と課題」をテーマに、学習指導要領変更点、高校生や飛騨地域の特徴について、外部講師による研修会を実施した。

学会や研修等に参加した成果は、職員会議（1回/月）の職場内研修や休業期間を活用した学習会を開催し知識を共有した。キャリア別目標達成度により研修選択をしているが、学校の課題解決の評価には至っていない。

- ・臨床実務研修として、平成30年度は主たる実習病院での夜間研修（2名）と衛生専門学校での在宅看護論参観および管理研修（1名）を実施した。令和元年度は、老年看護学実習病院での研修（1名）と衛生専門学校での「看護過程」参観（1名）および管理研修（1名）を実施した。本校は遠隔地にあるため研修の機会は少なかったが、カリキュラム改正に向けた再構築の基盤として、遠方への学会参加や教務主任養成講習会受講（在宅勤務によるeラーニングや演習出張 1名）の取組みを進めた。
- ・授業研修として、参観授業による「看護過程」授業改善に取り組み、授業内容・方法の検討を進めた。授業に基づき基礎実習の内容・方法を変更することで学生の看護実

践能力向上に繋がる成果がみられた。

また、県内養成所の授業参観に教員全員が参加することで、授業改善への認識と知識・技術を高めることができた。

【課題】

- ・ 新任教員への教育体制が不十分である。
- ・ 授業研究、授業参観、研究調査活動ができる体制が整っていない。
- ・ 学会・研修の学びが報告会による知識の共有のみで、学科運営や授業改善に活用不十分である。

【対策】

- ・ 新任教員の教育として、OJTによる指導を計画的に進める。
- ・ 授業研究としての授業参観を計画して、学習会や時間調整を行う。
- ・ 学会・研修会の学びを活用した授業研究を計画する。

6)管理運営・財政

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。</li><li>・ 学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。</li><li>・ 災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。</li><li>・ 学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。</li></ul>	4. 3

- ・ 年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。
- ・ 平成30年度倫理委員会を設置して、倫理規程のもとハラスメント等の支援体制を学生・教職員に周知した。意見箱の投書には、適宜運営会議等で検討して対応した。学校が保有する個人情報については、「岐阜県情報セキュリティ対策基準」に従って管理している。
- ・ 災害時の危機管理として、備蓄品の管理の見直し、寄宿舍入寮生の夜間避難訓練、防災講話、学生による学習会等に取り組んだ。また、防犯・交通安全については、講話や日常的に指導し、寄宿舍の防犯カメラの増設をした。
- ・ 「学生生活実態調査」「寄宿舍入寮生調査」結果をもとに、指導方法の学習会や管理方法の見直し、環境改善を実施した。

【課題】

- ・防災マニュアルの見直しができている。

【対策】

- ・火災を想定した避難訓練を実施したが、校舎、寄宿舎ともに地震想定での訓練は実施していないため計画して実施する。

7)施設設備

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"><li>・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。</li><li>・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。</li><li>・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。</li><li>・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。</li><li>・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。</li></ul>	3. 1

- ・施設・設備の老朽化により、空調設備不良、機械棟建物劣化、自動制御装置不良、校舎屋上高架水槽からの水漏れ等が発生しており、計画的な予算化の必要がある。
- ・バリアフリー化は構造上大規模な改修が必要となるため、1階玄関、廊下の手すり、トイレ改修を計画している。
- ・学生のための福利・厚生設備は、構造上の限界から確保できていない。個別面談室、休養室、食堂、ネット環境などを整える必要がある。
- ・寄宿舎のセキュリティは、警備会社の管理設備が入っておらず、鍵管理と寮母に頼る現状であり安全確保が不十分である。
- ・図書室は利用が少ないことから、5年計画で学習に必要な蔵書数を増加している。また、司書は配置できていないため、図書委員による推薦本の紹介などで利用促進の活動を進めている。

【課題】

- ・校舎・寄宿舎設備の老朽化により、学習環境、生活環境が安全で快適に保たれない。
- ・寄宿舎の安全管理の強化が必要である。

【対策】

- ・学習、生活に直結する設備整備（空調設備、水漏れ等）から計画的に予算化・執行に取り組む。



- ・ 寄宿舍のセキュリティ管理設備導入を検討していく。

## 8)社会貢献、地域活動

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている。</li> <li>・ 地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。</li> </ul>	3. 3

- ・ ホームページは、入学案内や入学試験情報などを適宜掲載しているが、入学希望者や保護者のニーズを反映した内容（卒業後の活躍、地域の特徴、学校・寄宿舍での学習や生活の様子など）には不十分である。
- ・ 平成30年度から市内小学校で出前授業（命の尊さ、身体の仕組み、看護師の職業紹介等）を実施している。
- ・ 学校区の災害避難所として令和元年9月に協定締結し、地域住民の避難訓練を実施した。学生には、下呂市の地形や自然環境から避難所として地域貢献する主旨を説明し、協力及び自己管理を促した。
- ・ 地域ボランティア活動として、学生は夏季休暇等を利用して48名（延べ数）7か所に参加した。

### 【課題】

- ・ ホームページの内容更新が不十分のため、入学生調査やオープンキャンパス来校者調査結果の活用を検討する。
- ・ 学生のボランティア活動の評価ができていないため、受け入れ側と学生の声を反映した取組みを検討する。